

研究課題名

「ドナー細胞由来造血器腫瘍の発症に関わる分子機構の解明」

(課題番号1130)

疫学調査実施についてのお知らせ

国立成育医療研究センター小児がんセンターでは、ドナー細胞から生じた造血器腫瘍の腫瘍細胞について詳細な遺伝子解析を行い、発症のメカニズムを解明することを目的として、以下の疫学研究を実施しております。概要を記しますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

平成 28 年 3 月 8 日

【研究課題名】

ドナー細胞由来造血器腫瘍の発症に関わる分子機構の解明

【研究期間】

倫理審査委員会承認～平成 32 年 3 月 31 日

【研究代表者（本研究に関するお問い合わせ先）】

加藤元博

国立成育医療研究センター 小児がんセンター 移植・細胞治療科 医長

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

TEL: 03-3416-1811 (内 7782) FAX: 03-5494-7909

【研究の意義・目的】

同種造血幹細胞移植を受けた後に、ごくまれにドナーの細胞に由来する造血器腫瘍を発症することがあると報告されています。造血器腫瘍の腫瘍細胞を調べると、様々な遺伝子の異常が加わっており、その遺伝子情報の異常で造血器腫瘍が発症するとされています。そこで、ドナー細胞から生じた造血器腫瘍の腫瘍細胞について詳細な遺伝子解析を行うことを計画しました。この研究の成果は、なぜドナー細胞から造血器腫瘍が発症したのかを理解するとともに、一般的な造血器腫瘍が発症する過程を明らかにすることにもつながると期待されます。

【研究の方法】

この研究は、同種造血幹細胞移植を行った後に、ドナー細胞に由来する造血器腫瘍を発症

した方を対象とします。およそ10名の方にご協力をいただく予定です。

ドナー細胞由来造血器腫瘍と診断された際に、診療の過程で採取された血液・骨髄血の残余分を使用します。これらを解析機関である国立成育医療研究センターに送付し、名古屋医療センターと共同で細胞にどのような遺伝子異常が起きているのかを解析します。さらに、その遺伝子異常を手掛かりにして、移植の直前から移植後の経過の中で採取された骨髄や末梢血などを同じように検査することで、ドナー由来造血器腫瘍がいつから、どのような過程を経て発症したのかを解析します。

また、どのような造血器腫瘍であったのかの情報をあわせて使用しますが、解析にあたっては匿名化（個人が特定されないように個人情報について配慮すること）して行います。

なお、この研究については、国立成育医療研究センターならびにそれぞれの診療施設の倫理審査委員会（または相当する組織）において、研究の遂行に倫理的な問題がないことの承認を受けています。

この研究のためにご自分の検査の残余分や、情報を使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、研究代表者にご連絡ください。ご連絡を頂かなかった場合、ご了承いただいたものと考え、解析とデータの処理をいたします。

【本研究の結果の公表について】

この研究の成果は、医学・医療の進歩のために医学専門誌や学会などで発表いたしますが、その際にも、個人情報の保護に努め、研究の参加者のプライバシーには十分な配慮を行います。

【その他】

この研究は国立成育医療研究センターの公的研究費を用いて行われます。